



在京古高同窓会会報
第73号
http://在京古高同窓会.com
〒273-0117
鎌ヶ谷市西道野辺14-47-105
在京古高同窓会事務局
高橋 克嘉
TEL.090-8172-1938
kktakahashixx0987@gmail.com
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

大崎耕土に秋たけて

会長 伊藤 健二



校歌、園南歌はご記憶があるでしょうが、タイトルは球技部歌の出だしです。次に「治乱の夢をこえ行けば…」と続きます。

入学当初の十五歳の身には、応援の練習で、上級生の罵声におのきながらも、重要な時期のことは秋と書いて、「とき」と読むんだと少し大人になったような気分でした。地方とはなんだろうか

ユニクロを運営しているファーストリテイリングの柳井正社長の著書を通読した時期がありました。山口県宇部市で実質の開業をして、今はグローバル企業にまで成長させた経営者に、同じ地方の出身者（実際には私はもつと田舎です）として興味を抱いたからです。

氏は、合理的なことに美意識があり、しがらみを捨てる姿勢に圧倒されましたが、以下の記述には躊躇したものです。

「地方って、東京の配給を受けているだけなんです。…もともと地方文化っていうものはないんじゃないですか。ほんとは昔なら、地方から文化が生まれたかもしれないですけれど、戦後から今に至るまでは、ほとんど発生していないでしょう。」

「個人的なユニクロ主義」二〇〇一、柳井正、糸井重里著）

転勤を重ねる中で、地方の中小企業には地域の文化を担っているの思いがありました。このように一刀両断されると、簡単に反論できない自分がいました。また、地方の経済団体の長の、「都市圏は潤っているが、その恩恵は乏しいもので、地方の優秀な人材は卒業しても、戻ってこない。人材の供給基地みたいになっていく。」というコメントを聞いて、残念との思いしか残せませんでした。

地方の価値とは

きれいで言えば、地方分権（ある意味では、地域での集権）が議論される中では、地方の重要性は論を待ちません。

でも、その価値を、都市圏の出身者が多い東京で簡明に主張することは、意外に難しいものです。山林も含めた国土の保全、食料安全保障、観光資源、産業の集積、リスクの分散、エネルギーの供給など、いくつでもあげられます。特色のある地域ならば、これですと言いやすいのですが、人口減少の著しい町や過疎の町になると、もつと難しくなります。

考えあぐねていたのでありますが、歳を重ねて今はこうです。地方の価値を評価するのは経済的合理性の尺度だけでなく（あるに越したことはないが）、そこで暮らし、なりわいを立てている人、その地域を愛する人の思いの強さの集積にこそ意味がある

—在京同窓会メモ—

- ・会計年度は4月～翌3月、年会費は2,000円です。振り込み用紙が同封された方は会費納入をお願いします。
- ・会の健全運営のため、会費にあわせて賛助金のご協力をお願いします。
- ・次回会報第74号は2025年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

と。災害復興や地方創生で力を発揮するのは、その地域への思いの強い担い手であり、周辺であつてもその地域を愛する人たちだと思つていきます。

柳井氏はそう言つてはいますが、ファーストリテイリングの本社はまだまだ山口県にあります。合理的な意思決定の裏側には、説明しにくい地域への思いもあるのではと勝手に推測しています。

秋たけて

大崎が元気でいてくれるのは、同窓生の励みになります。たまには集つて、郷愁だけでなく、郷土への思いを語りましょう。今年の総会は青木さん（平二十四年卒）の公演もあり、華やかなものになり、応援したいものです。

秋たけて、皆さまのご参加をお待ちしています。

ご挨拶

古川高等学校校長 牛来 拓二



在京古高同窓会の皆様には、日頃より母校の教育活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、三月一日には七十六回生

二二九名を送り出しました。卒業生は、運動部では山岳部、スキー部がインターハイに、陸上部、剣道部、ソフトボール部が東北大会に出場し、文化部では文芸部が全国高校文芸コンクールで入選を果たしました。進路面では難関大学に向けた受験指導についてはなお課題が残りましたが、後期入試まで粘りを見せ、国公立大学への合格は九三名となりました。

また、四月二十五日（木）には第六五回臨定定期戦が築館高校にて行われ、全校生徒の応援のもとで大熱戦が繰り広げられました。成績は九勝六敗で三年連続の総合優勝をすることができました。コロナ禍での制限のない活動のなかで、伝統を守った生徒たちの活動には感謝の言葉しかりありません。今年の対戦では競り合った試合が多くあり、負けた種目は僅差や逆転負けがありました。大声援の応援の中で、敗戦した際に号泣する選手も見られ、定期戦で戦った重圧が今後の高校総体に向けて生徒たちの成長を促してくるものと期待しております。また、先だつて行われました県高校選抜ソフトボール大会では五年ぶりの優勝を飾ることができ、こちらも上位大会での活躍が期待できる場所です。

校舎の老朽化に関して、先日の県議会において管理棟と北校舎の改築が決まりました。令和八年までに仮設のプレハブ校舎を建設し、旧校舎解体と新校舎の建設を令和九年、十一年にかけて行う計画とのことです。令和九年は開校一三〇周年を迎える年度ですが、上記の事情から記念事業等については工事計画の進捗をにらみながら進めていくことになりそうです。いずれにしても校舎落成まで5年以上の期間で様々な行事も予想されますので、今後とも連絡を取らせていただきながら必要に応じてご案内し、事業を進めて参りたいと存じます。

ましては、引き続き生徒達が多様な経験を積むことができるよう努力を続けて参る所存ですので、皆様には、多方面からのご助言を賜りますようお願いいたします。

在京古高同窓会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和6年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

【日時】令和6年6月22日（土）
11:00～15:00
【会場】総合宴会場「オーラム」（昨年と同じ）
所在地：〒110-0015
東京都台東区東上野1-26-2
TEL: 03-5812-1123
【会費】8,000円
【公演】ソプラノ歌手 青木麻菜美さん
（平成23年卒）
【曲目】オーソーレミーオ、ハバナラ
私の愛しいお父様、愛燦燦 他



青木さんからのメッセージ

「6月22日、在京同窓生の皆さまへ演奏させていただきます。大変貴重な機会を誠にありがとうございます。皆さまへパフォーマンスをお届けできますこと、とても楽しみにしております。」

本部同窓会だより

雪第73号に寄せて

古川 高校同窓会 会長 伊藤 貞嘉



在京古高同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。能登地方の地震災害でお亡くなりになられた方々のご冥福を祈るとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

世界に目をむけますと、ウクライナ情勢には出口が見えず、パレスチナとイスラエル間で戦争が勃発しました。また、アメリカでは、トランプ前大統領が共和党の代表になる様子です。はたして、トランプが再び大統領になるのでしょうか。

トランプが前回大統領になった時、私は東北大学の研究担当理事として、メキシコのモンテレイ工科大学で行われていた産学連携の会議に出席していました。この選挙結果に、皆驚くと同時に不安の様相が見られました。

後の懇親会冒頭の挨拶で、モンテレイ工科大学の学長が「トランプ氏の勝利は、科学技術と経済の急速な発展に人間がついていけなくなり、そのギャップに、人間の恐怖、貧富の格差、不安、妬み、憎悪、不平等感が生まれ増幅している現状に対して不満が大きくな

り、Make America Great Againと分かりやすいメッセージを出したことによるのだろう。現代社会は、技術革新の進歩とそれを使う人間社会・文化のギャップから生まれ、これまで人類が直面したことのない様々な問題が発生しており、それが急速なスピードで変化している。このような時代に大学が果たす役割は有為な人材を育成することである。これは教えることでは達成できず、自らチャレンジする（それを推奨する）環境をつくることである。」と話していました。また、カルフォルニア大学サンディエゴ校の研究担当理事は「ヒエラルキーはイノベーションを阻害する。失敗する勇気を涵養し、それから学んで立ち上がることをサポートする組織や社会がなければならぬ。サンディエゴ校ではたくさん、しかも、早く失敗することをエンカレッジしている」と言っていました。日本も少しずつ変わってきているとは感じますが、やはり、日本はまだ失敗を恐れすぎる階級社会であり、失敗すると立ち直るのが難しい社会のような気がします。

さて、古川高校では昨年、世界で活躍する人々を招聘してキャリアアップ支援プログラムを行いました。在校生自身が自分たちで計画したものです。「第一歩を踏み出す」がテーマだったようです。今年も同窓会としてサポートします。彼らがたくましく育って、世界に目を向け、情熱と勇気をもって様々な課題に挑戦していくことを期待しています。今後も同窓会は母校を支援していきますので、よろしくご協力お願いいたします。皆様の益々のご健勝を祈念しております。

2024年3月卒業生 進路状況

国立大 58名 (新卒56名 + 既卒2名)

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists universities like Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

公立大 37名 (新卒37名)

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

私立大 371名 (新卒366名 + 既卒4名)

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

専修大 1名

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

短大等 6名

Table with 5 columns: University, Faculty, Gender, Count, Total. Lists Tohoku Univ, Gifu Univ, etc.

専修各種学校 12名

Table with 5 columns: School, Gender, Count, Total. Lists various vocational schools.

就職 4名

Table with 5 columns: Job, Gender, Count, Total. Lists various job positions.

東京 螢雪賞

『東京螢雪賞』は 女子二人に

三月一日に高校の卒業式が行われ、在京同窓会からは会長が出席し、東京螢雪賞を授与しました。今年の受賞者は、生徒会長の中館季来さん、応援団長の小笠原千乃さんの女子二人です。

平成十七年から男女共学となり、十八年が過ぎ、これまで生徒会長に女子が選出されたことはありませんでしたが、応援団長が女子となったのは初めての事です。今年の卒業生二二九名の内訳は男子一〇九名、女子一二〇名。卒業式での卒業証書は六クラスごとに代表に授与されるのですが、その代表は五クラスが女子でした。

男女共同参画として、女性管理職や大企業の女性役員の比率が三〇%の目標が掲げられる中で、二人とも女子というのは当然のことです。あえて見出しにするほどの取り立てた話題ではないのかもしれませんが。ただ、男子校、バスケが校風で、下駄の通学がほとんどの時代を過ごした読者諸兄には時代の変化を感じるものと思います。

卒業式の生徒会長の中館さんの答辞は堂々として、応援団長の小笠原さんのエールは会場を圧するほどの迫力でした。お二人に立候補した理由、在任中の印象に残ったことを聞いてみました。

中館さん（色麻中学出身）
「古高愛が強く、一人でも多くの生徒に、古高でよかったと思ってもらえる学校をつくりたい。定

期戦、行事、生徒会活動で史上最高を目指したかったからです。JSBN (Japan Student Business Network) キャリア教育プログラムでは同窓会や学校の後押しの下、生徒で一から作り上げた企画に約百人が参加してくれました。」



生徒会長：中館さん

小笠原さん（田尻中学出身）

「先輩たちの定期戦に対する熱意に強く心惹かれ、二年生のときには応援団幹部として活動。そのときに応援団長の堂々たる背中を身近に感じ、私も周りから憧れられる人物になりたいと思いました。定期戦ではコロナ前に戻り、対面で応援合戦ができ、両校共に生徒が本気となって取り組む姿を見ることができました。」

お二人の姿は凛々しく、卒業式の最後には、小笠原さんは「これで団長を終わりますが、私はみんなの応援団であり続けます。」と挨拶。

読者諸兄、ご安心ください。バスケの時代からは見た目の外見は変わっても、質実剛健、自主自律、互いを尊重し絆を大切にしている気風は引き継がれています。いい卒業式でした。



応援団長：小笠原さん

四校新年の集い 報告

「新年の集い」

四年ぶりに開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため延期を余儀なくされていた旧古川市内四校関東同窓会による「第28回新年の集い」が、1月27日、KKR「ホテル東京」(東京都千代田区)において4年ぶりに開催されました。



当日は、伊藤藤康志大崎市長及び草刈文幸首都圏大崎連絡協議会会長をお迎えし、また、四校の校長先生や本部同窓会から多数の方々にご出席いただき、総勢153名による開催となりました。

総会においては、後輩たちが多方面において活躍している様子や四校の現況などをお聞きすることができ、また、伊藤市長からは、陸羽東線の存続に向けて自らが先頭に立って奮闘されていることな

ど、郷里の発展のためにご尽力されていること、草刈会長からは、首都圏に数ある「ふるさと会」などの横のつながりを深めるとともに大崎市の発展のために活動していることなどをお聞きすることができ、故郷を離れて暮らす私どもにとりましては、貴重な機会となりました。

ご出席いただきました皆様には、この紙面をお借りして、御礼申し上げます。

公演の部のゴスペルは佐々木さんの報告にお任せするとして、懇親会においては、卒年ごとにテーブルに着き、同級生等との旧交を温めるとともに、在京古高同窓会を代表して上野正司氏(昭和39年古高卒)によるカンツォーネ、高橋秀之氏(昭和41年古高卒)による民謡をはじめとして、各校同窓会による歌や舞踊が披露されるなど、盛大のうちに終了しました。

次回「第29回新年の集い」は、令和7年1月25日(土曜日)に開催することで準備を進めてまいりますので、多くの皆様のご出席をお待ちしております。



BIPは、企業様と共に事業開発・経営改善に取り組み、第2・第3の成長を創るパートナー



Business Integration Partners
BIP株式会社

昭和42年卒

取締役会長 佐々木 昭美

東京本社 東京都中央区日本橋1丁目2-10 東洋ビル6F
TEL: 03-5542-1417 FAX: 03-5542-1418
東北事業所 宮城県仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F
TEL: 022-208-9322

E-mail: info@bi-p.co.jp URL: http://www.bi-p.co.jp

第28回旧古川市内四校 関東同窓会に参加して

昭53卒 佐々木裕次郎

会場の窓から見える都心の風景は冬の凜とした空気のためか美しく感じる。一月二十七日開催されました。コロナ禍明け四年ぶりの開催となりました。昨年入会の私にとつてはすべてが「新しい」でした。会場や資料の準備、会場へのご案内など先輩の皆様の指示をいただき、滞りなく開会することができました。

四高合わせて一五三名参加のもと、当会伊藤会長の開式挨拶から始まり、各校学校代表と同窓会代表者から、現在の学業実績・クラブ活動報告がありました。古高からは築高との定期戦、古工は工業技術大会での活躍黎明（旧古女）はまもなく二十年を迎える共学・中高一貫校のお話、古川学園（古商）はやがてバレーボール部の活躍の話題が印象的でした。

ご来賓の伊藤大崎市長からは変わりつつある旧古川市内（市役所を中心にした）風景の変化などの報告をいただきました。私も帰省の時には旧古川市内を車で走ることがあります。ハンドボール部だった私たちがよく通った運動具店のあった七日町のT字路付近は大きく変わり、市の施設が点在しているのを見かけておりました。あそこが市長が話していただいた場所かと思っておりました。

第一部最後はゴスペルグループ「ミルキーウェイ・クワイア」（昭和56年卒／菅原祐二さんもメンバーです）によるゴスペルミュージックの上演でゴスペルの他にも懐かしいアパソしてビートルズの十九曲を四分十九秒にまとめた「メドレー・Re wind」クイーンなど若い頃に身近に耳にしていた曲もあり、楽しい時間を皆さんと共有することができました。

第二部は変形のL字型の会場になり、先輩の方々は着座、出席者の中ではまだ若い私たちは立食スタイルでの宴席でした。開式挨拶・乾杯から宴席となりました。宴が盛り上がる中で宮城の地酒のコーナーは列をつくる場面もあるほどの盛況でした。これまで、お話しする機会がなかった先輩にも気軽に声がけいただき、古高の歴史のお話など楽しい会話をすることができました。

第二部の宴席の盛り上がりを受けて、二次会は引き続きホテル内小宴会場で行われました。大先輩の学校生活は、高度経済成長時代のパワフルな古高生を感じる大変興味深い時間を過ごすことができました。最後に、私が一番印象に残ったのは古工同窓会の方のスピーチ「はげましておめでとうございませう」は、自身の頭部の特徴を印象づけて会場の方々の目と耳を引きつけて、自校のアピールをされていました。人をつきつけるスピーチをぜひ私も身につけたいと感じました。

今年一年、健康と幸せを実感できる世の中になることを祈り、新春の集い参加報告とさせていただきます。

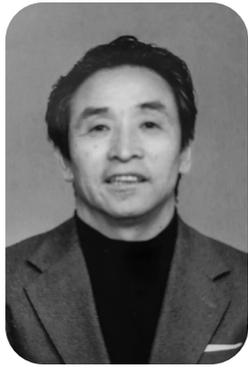
懐かしの先生からの寄稿

音楽の道に突き進んだ

我が古高時代

古川混声合唱団 指揮者 友川 廣人

私は、昭和28年4月古川高校に入学しました。そして、庄司芳武先生に音楽を教えてもらうことになりました。一ヵ月経った5月頃、授業終了後、残されて君の声はとても良い声だから合唱団に入って活動してみないか？と誘いを受けました。即答はせず「一週間程度考えさせて下さ



い。」と答えたが、先生に良い声と誉められたので（自分でも悪くない声とは思っていたが）合唱団に入部してみたいものの楽譜は読めないし、音取りも満足に出来なかったので高校1年生の頃はさほど真面目な合唱団員ではなかった。しかし2年生になり自覚も少々出てきて、ピアノを弾き出したりするようになり、真面目に取り組むようになりました。高校3年生の文化祭（9月）に山形大学特設音楽科で声楽の勉強中の飯田益己氏（古高の5年先輩）、藤田光宏氏（同2年先輩）のお二人に特別出演して頂いた。それも庄司先生の計らひであるが、その歌を聴いて「私もあれ位は歌えるのではないか？」との錯覚に陥りその後すぐに、どうすれば山形大学に入れるのか？どのような科目があるのか等を聞き、すつかりのぼせ上がってしまったのです。翌年3月1日の卒業式の翌日同級生4人が先輩の住む下宿に転がり込んだのです。今思うに本当に音楽の「音」の字も分からない者が夢中で駆け込んだ世界だったのです。まさに、「めくら蛇に怖じず」の心境だったのです。小生は帰郷するたびに愚痴をこぼすために庄司先生宅にお邪魔して音楽談義を長々としたものです。先生もそれを笑顔で聞いて下さる素晴らしい心の深い先生でした。小生が一番影響を受け、最も尊敬する先生でした。

昭和39年〜平成元年の25年間、古川高校で教鞭をとられた音楽教師。教え子の多くは、普通高校出身というハンデを全く感じさせず音楽関係（特にクラシック部門）の第一線で活躍している。

古高に二度勤務して

二宮 景喜
（昭和44年4月〜53年3月 英語）
（平成14年4月〜16年3月 校長）

今でも時々凶南歌を口ずさむことがある。卒業生でもないのに、「猛者の眼につゆ宿る」という一節に来ると目が潤んでくるのはなぜだろうか。県立高校の教員に採用され、最初に勤務したのが古高である。やりがいがあり、慣れてくると居心地もよかったが、新採用の教員が長年同じ学校にいるのは生徒のためにも自分のためにもならないと思い、九年いて異動した。

その後五校に勤め、最後に勤務を命じられたのはまたしても古高だった。二十四年過ぎて振出しに戻るといふ意外な成り行き。古高の歴史と位置づけを知っているがゆえに私でいいのかと思っただけ。しかし、凶南歌を生徒と一緒にまた歌えることをうれしく思った。

最後の古高は二年間だったが、短いわりには多事多端だった。進学実績の向上はいつも頭から離れなかった。その中で古高の共学化のレールを敷くことが大仕事だった。これには、私が古高の卒業生でないからやれたのだからと言う人もいた。しかし、それは違う。同窓生、在籍している生徒や保護者、そして古高を支えてくれている大崎の人たちの思いを受けて、古高の将来を見据えての決断だった。第一、私自身も若い教員時代を生徒とすごし、喜びも恥も多い青春を九年間共にしたのだから、



古高のことは他人事ではない。自分も卒業生の一人のつもりでいた。それから二十年たち、昨年十月に昭和四十八年卒の卒業生に松島での同期会に呼んでいただいた。同期会に呼ばれることは最近では少なくなっていたが、今回は古高を祝うものだという。約六十名の参加があり、懐かしい面々に再会し、うれしいかぎりであった。五十年の歳月が流れる中、私も八十路に入り、昔の生徒たちも高齢者の仲間入りをしている。もう先生生徒の境目はない。懐かしい仲間が集いだった。すでに鬼籍に入った卒業生も少なからずあり、寂しさも感じた。同期会当日に奇しくも訃報が伝えられたのは三年の時に担任をした生徒であった。元氣な姿で会えればよかったのにと心底思っただけ。ご冥福を祈るのみ。

紙幅も尽きてきた。旧制中学校の雰囲気はまだ残っていた昭和四十年代の古高のあれこれを、特に先生方そして蜜カラな生徒の様子を書いておきたかったが、とてもここには収まらない。他の伝統校にも言えることだが、古高には今では信じられないような浮世離れをした伝説や面白い話が多かった。伝統が脈々と生きといて、外から飛び込んだ私には漱石の「坊っちゃん」に出てくる学校のように思えた。もしも私が文才に恵まれていたら、少し脚色を加えるだけで、昭和版の「坊っちゃん」を書けたかもしれない。

とまれ、この同期会は楽しかった。次にまた呼んでいただければ、体の許すかぎり参加したい。楽しい思い出

現古川混声合唱団 指揮者

出話、うまい酒、そして凶南歌を歌えれば、他に言うことはない。在京同窓会皆様のご健康と長寿を切に祈って、拙文の結びとする。

古川高校の野5年

旧保健体育科教員 柳恭一

今から半世紀も前になりますが、昭和50年に「県北の雄」として目される古高に27歳で赴任し、3年間在職しました。当時の古高は、個性豊かな風格ある先生方が多く、経験の浅い私は大変に緊張しました。

その3年間の思い出の一つは、「恐山の修学旅行」です。当時の古高では、修学旅行の企画は一切生徒任せでした。副担任として引率した2泊3日の修学旅行は、下北半島の恐山などを巡るものでした。事件は一日目に起こりました。むつ市から路線バスで恐山に行き、見学も終わりバス停に戻り、復路の時刻表を見て嘔然としました。帰りのバスが無いのです。乗るべきバスは恐山まで乗ってきたバスで、それがむつ市行き最終バスだったので、生徒と引率の約50名が、下北の山の中に取り残されました。急遽、タクシーでのピストン輸送に切り替えましたが、生徒達はタクシーが来るまで歩くと言いつつ、かなり急勾配の峠もありましたが、応援歌・宣揚歌などを皆で意気揚々と歌いながら歩きました。途中、タクシーが来ても歩く方が楽しくなったのか、乗らずに歩き通すといい出し、乗せるのに苦労しました。結局、ほとんどの生徒と我々引率は宿まで歩き通しました。生徒達には忘れられない修学旅行になったようですが、私にはただ疲れただけの修学旅行でした。今だから話せますが、考えられないことです。



2001年2月 古高ハンドボール部同窓会

もう一つの思い出は、ハンドボール部の顧問のことで、前顧問の後任として、1年間だけの期間限定で学校長から顧問を申し渡されました。それまで個人競技の経験はありませんが、団体競技としてハンドボールは全くの素人でした。しかし、顧問になって初めて総体の対一高戦で、試合が膠着状態の時に左利きの選手を途中出場させたところ、その選手が得点を挙げて試合の流れが変わり、見事に勝つことができました。それがきっかけでハンドボールにのめりこみ、3年間顧問を務めました。初めのうちは、素人だけに指導方法が分からず暗中模索の日々でした。それでも、部員同士が話し合っ練習するのが伝統で、素人顧問の私には凡ブレイ・凡ミスを注意するぐらいの指導でも、毎日練習に出ていくこと、他流試合を多く組んで、自分たちのレベルを客観的に判断させる機会を多くしたことで、徐々に戦績が挙がりました。

勤務3年目の総体では、惜しくも決勝で「宿敵」仙台育英に負けましたが、東北大会に出場できたことが、ひとつレベルの高いハンドボールを生徒も経験でき、後輩の新人大会優勝につながったと思います。そして、その勢いで次の総体で優勝し、イン

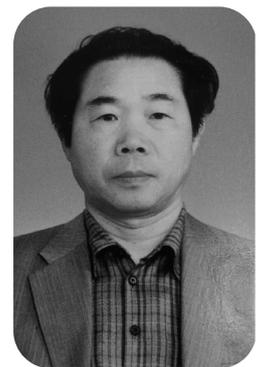
ターハイ出場を私も夢見ていました。ところが、急に私の転勤が決まりました。それを部員に話すのがとても辛かったですが、このメンバーは、総体に向け全員で残された期間を練習に励み、優勝を勝ち取れると私は信じていました。翌年の総体の会場は私の転勤先の二女高でしたが、古高の試合を夢中で応援していました。優勝の瞬間、涙が止まらなくなりました。思い出します。その総体の成果が次のチームに伝わり、2年連続の総体優勝を遂げました。特にスタンプレーヤーはいなくとも、素晴らしいチームワークを発揮し古高ハンドボール部に新たな足跡を残してくれました。私の教員生活の中の密度の濃い古高での良き思い出です。

「いま」を再認識しよう！ 古高校訓「質実剛健」 学問尊重 自主自律

古高国語科元教諭 横山寛勝

同窓会全体に対して、長い間ご無沙汰しており、誠に申し訳なく存じております。しかも在職中は長らく同窓会係を受け持ち、創立百周年記念事業も担当した手前を思い出すと、尚更その感を深くしています。すみませんでした。

私が退職して早くも28年になりました。古高には通算29年(内講師1年)勤めましたが、当時はまだ現在の南校舎の一部東端も、西の体育館もなかったし、男女共学制に至っては、予想も及ばなかったし話題にさえならなかった。約30年の間には、様々な出来事がたくさんありました。中でもどうしても忘れられない、古高史上エポックメイキングな事柄をいくつか選び出して、以下思い出に耽りたいと存じます。



最初に学校全体を巻き込んだ事件として、昭和40年代の大変革であった「制服の自由化」問題を取り上げます。それまで厳しくチェックされてきた、蛍雪ボタンつきの黒学生服を、どうしても脱ぎたいとの強い要望が生徒の間から出され、約1年かけて全ホームルームで充分議論し、最後はその結論を持ち寄る形で生徒大会で検討され、自由化の方向で決議された。最終的には職員会議に諮られ、さしたる混乱も承認された。歴史的瞬間！

この「自由化」路線は、いろいろな方面に波及した。先ずは、文化祭のコンセプトと内容の改変。生徒たちのアイデアを尊重し、祭りの要素を取り入れるなど、文化祭実行委員会は大幅な様変わりを見せた。従来の文化部研究発表型から、文字通り祭りの催しに相応しい賑やかで楽しいバラエティものを加えたのである。一方、学習面では三学年のカリキュラム(教育課程表)を大胆に編成し直し、他の高校ではまだ実施していなかった、二、三の必修科目を除く多数の教科目につき、「選択制空時間制度」を導入した。これは特筆すべき思い切った改革であった。自分の時間割の中に自由な空時間を設定し、その時間は図書室や蛍雪会館の自習室などで自学自習できる。ブラブラ出歩くことは禁止。しかも時間割の後半が空なら、早引けも可能とした。この制度改正は、生徒ら自身の適性の伸長と受験科目の学習に、大いに役立ったはずと確信している。

また二、三年の希望者を対象に、校内模試を英数国は年6回、理社は2回行った。しかも、二、三年同一問題で。国語や英語などでは、二年生が三年生を追い抜く上位者も出るなど、スリルと励みに満ちていた。学問に年齢差はない。やればできる。その校内模試問題は、5教科すべて我われ教師のオリジナル問題。教科内で分担して作成し、持ち寄っては何度も真剣な審議を行って決定するのが習わしだった。したがって、この方式は我われ自身の極めて有効な研修の場にもなったのだ。さらに生徒たちにはキツかったかもしれないが、「文武両道」(学習と部活の両立)を厳しく求めることを校是としていたので、赤字を取った者には日々の部活を禁じたのだ。その生徒は、当然正式試合の出場権を奪われた。不名誉極まりなし。この厳しい措置は、心身の強固な力と、賢明な知性をつけてもらうことを期待していたがためであった。

いろいろ挙げればキリがないが、これらの良き制度慣習を順調に維持継続せしめているには、生徒と教師間にそれなりの頼れる土壌があったからなのだ。その下地となる条件とは何か？一つは、古川高校全体に百三十年間も校風として現在なお横溢しているだろう自由の気風であり、二つに、生徒と教師の間及び生徒同士に、しっかりと根付いている信頼の情であろう。この二つは、利己心からは決して育まれない。人間の我利我欲は、他人の自由を奪い、人間相互の不信は、人間同士の繋がりをズタズタに断ち切ってしまう。

思えば古川高校の新生入生は、応援団リーダーたちの怒声のごとき挨拶入りを許さず先輩たちとの連帯を築くことになる。「オツス」はそのマジナイ(呪い)ことば。四月末の対築高定期戦に向けて、応援団幹部による一年生のクラス廻りー猛烈な

古高女子第一期生として

平成20年卒(女子第一期生)
横倉 あずさ (旧姓 樋野)

2000年に入り、宮城県内の女子高男子高が共学化を始め、古川高校も共学化すると耳に挟んだのは、ちょうど中学生の時だった。古川高校と言えば東北の公立では石高と並ぶ二大進学校と聞いていたので、特に専門的な分野に興味がある訳でもなくとりあえず大学進学しやすい高校をと思っていた私には朗報であった。

叔父や通っていた個人塾の塾長がOBで評判も悪くなく、石巻や仙台より通いやすい。そして何より私服で登校できるのが大きい。もう冬の冷たい風に震えながら我慢してスカート履く必要がなくなるのは、当時の私にとってはこれ以上ない素晴らしいことだったのだ。

無事に入学しスカート生活からおさらば出来た喜びで胸を踊らせた私のおふふわした気持ちは、すぐに良い意味で壊されることになる。入学してすぐに始まる洗礼、もとい応援練習である。練習初日に応援団長が「古高生としての自覚を持って練習に励むように。女子も男子も



入学式にて同窓会長よりバッジ受け取る

関係なく平等に指導する」とハッキリ言い放ち、その言葉の通り男女等しく声が出てなければ居残り、また練習に遅れば叱られた。

4月の朝でまだ体育館の床は冷たく足が凍えそうになったし、早起きしなければならなかった。早く起きないこともあった。でも応援団の先輩方が本気で指導し、叱ってくださる姿勢を見ていくうちに自然と姿勢を正し大きな声で練習に励んでいくようになり、1年生がまとまっていく雰囲気を感じた。その後の築高戦では、上級生と共にみな腕を振り上げ高らかに校歌や凱歌を歌っていたのを覚えている。応援練習からの築高戦を通して、「古高生としての自覚」が少し芽生えたと思う。

また、本格的に高校生活に入ると、暫くはそこかしこに男子校の名残を垣間見ることがあった。休み時間、3階の音楽室に向かうため階段を昇っている廊下をパントゥ1枚で走り回っている先輩方が「やべっ女子だ!」と近くの教室に慌てて駆け込む姿を目撃したり。体育祭のクラストシャツに堂々と書かれている下ネタだったり。先生の中には、「女子が入ったから下ネタで解説できない」と授業中に愚痴る先生もいた。

また、入部した吹奏楽部の定期演奏会では、終演後に部員全員で校歌や凱歌を歌いながら手伝いに来てくれたOBの方々に水やジュース等を含めて決行された。OBの方々は遠慮なく水をぶっかけてくるので、歌に所々悲鳴が混じっていた。終わった時にはテンションが変な方向に振り切れて、びしょ濡れなのにもう笑うしか無かった。

私は高校生活のことを必死に思い出しながらつらつらこの文章を書いているが、勉強や部活をはじめ行事や休み時間のおふざけに至るまで、「本気で楽しんでた」と、ふと気づく。思い出が美化されている事は

多少は否めない。でも思い返す皆の顔は中途半端に斜に構えるようなものではなく、「本気で」学生生活を楽しんでる満面の笑顔が多いのだ。なぜこんなにも全力で楽しめているか、それは先生方の影響も大きいにあると思っっている。「何らかの物事に本気で取り組んでいる」先生方が多く見受けられるように感じたからである。

棺桶に片足を突っ込んでみると口癖のように言いながらも毎日生徒を元氣よく叱り飛ばし棺桶の方が逃げていきそうなS先生、オイニーをブンブンさせながらも部活を時に厳しく時に笑いで和ませてくれたI先生、化学が大好きすぎて実験で髪を燃やしてしまっても気にせず実験結果を熱く語るA先生などなど。

中でも化学のA先生は特に化学に對し並々ならぬ情熱を注いでおり、授業で目をキラキラさせながら化学について弁を奮っている姿がとても印象に残っている。また新入生恒例の船山登山では「皆さん!これが自然です!マイナスイオンを感じるでしょう!!」と登山前の集合時に興奮気味に語り、登山を開始すると本当にマイナスイオンを吸収し軽やかな動きで新入生たちを追い越して進むその姿はさながら山の精のようであった。更に、友人と陸羽東線のボックス席に座って雑談していると急に後ろの席から愛読書である化学誌Newtonを差し出してきて「ここを見る!すごい発見だぞ!」と熱弁し始めたのだ。私と友人は呆気に取られて簡単に頷くくらいしか出来なかつたが、A先生は話終わると満足そうに電車を降り、普段通りの大股で去っていった。嵐にあったような気分だったが、同時に大人になっても何かに熱中する人はすごく眩しく感じたのだ。

改めて思うが、古高は「本気で楽しむ」為の努力を知り、学び、そして実践できる環境があったと思う。3



よさこい

年という時間はあっという間に過ぎ去っていったけれど、知識だけでは分からない貴重な経験を沢山させてもらったと思っっている。



よさこい親子チーム

高校卒業後は法政大学に進学し、勉学に励む傍らよさこいサークルに入った。(よさこいとは高知発祥で、鳴子という楽器を持ちながら踊るダンスの一種である。)するとあれよあれよという間にのめり込み、関東各地の祭りだけでは飽き足らずよさこい発祥の地、本場高知のよさこい祭りに参加するようになった。真夏の照りつける太陽、陽炎がゆらめくアスファルト、地方車から響く爆音、沿道にひしめくお客様からの声援、踊り終わった後の達成感:よさこい祭りの全てが私を虜にした。夜の高知市内のコインランドリーで遭遇した、南国でのびのび育ったであろう黒光りのカサカサ動く大きい虫など気にならないくらい素晴らしいお祭りだった。

もつと高知のよさこい祭りに参加したい、よさこいを踊りたい気持ちが強くなった私はその後、社会人メインの本格的に賞を狙いに行くチームに参加するまでになった。練習は仕事終わりに週5、夏の体育館の中でTシャツが絞れるくらいまで踊りこむ。もはや部活レベルといつても差支えは無い。でもそれだけ歯を食いしばって練習したからこそ、賞を貰った時には自然と涙が浮かび上がるのだ。同じチームの踊り子同士、

たので2023年から踊るのを再開した。夏にはご縁があり家族全員で高知よさこい祭り全国大会で踊ることも出来た。また母子で地元フアミリーチームにも参加し始めた。メンバーの半分は子供なので以前のよさこいギラギラしたものはないものの、親子で共通の体験が出来るかがえない経験が出来ている。有難いことに、今年からは過去の経験を活かしてチーム内のメンバーに振りを教えるインストラクターの役割をいただくことになっている。社員として仕事と育児を両立し、更によさこいもとなると時間的に厳しい事も多いとは思いますが、やれる限りはやり続けたい。大人になっても親になっても本気で取り組める事があるのは人生に確かな彩りを与えてくれている。

学生として本気で物事に臨むことはたとえどこの高校だとしても経験できたと思う。しかし、私はそれに加えて大人になっても本気で物事に取り組む楽しさ、その為に努力する姿勢を我が母校で教わった。先生方や先輩方が女子だからといって変に気を使わず本気で接してきてくれた環境があったおかげで今の私がある。もし中学生の頃の私に戻ったとしても、私は古川高校を選ばらう。

老若男女関わらず嬉し泣きで顔をぐちゃぐちゃしながら抱き合っただけ。打ち上げは二日酔いにならない程度にお酒を飲みまくった。人生で最高とも言えるような日々だった。結婚して娘が生まれた事でよさこいから離れていたが、ある程度大きくなった。

会員通信

●介護付ホーム暮らし6年目。同窓会のご隆昌と諸氏のご多幸を祈る。(S24年卒/三浦澄能)

●「蛍雪」楽しんで拝読しております。体力的に「新年の集い」欠席させて頂きます。盛会を祈念申し上げます。事務局ご苦労様です。(S29年卒/長浦桐)

●まだまだ少し元気です。2019年にドイツへ行って以来コロナが終息しても出掛けていません。40カ国で打ち止めになりそうです。写真の方は続いていて5月には新国立美術館(六本木)に6点出典します。詳細はHPでご覧頂くと有難いです。(S30年卒/塚田谷三)

●数十年前とは様変わりと思いが現在の授業等の様子の写真が載ったら良いのではと思っております。(S30年卒/手島篤郎)

●昨年の健診で注意信号が発せられ健康に充分留意しております。(S30年卒/渡辺吉郎)

●会報の会長の巻頭言が紋切型に墮さず新鮮な意図が感じられ好ましく思います。更なるご活躍を期待しております。(S30年卒/浅野和夫)

●年々歳々人同じからず、いつの間にもやら最年長クラスの仲間入り、いやいや最年長クラスのトップかも、お手柔らかにお願いします。(S30年卒/門脇喜代志)

●昨春、心不全と診断されました。疲れ易いが仲間会に、ゴスペルを聞くために同窓会に参加します。蛍雪第72号は音楽関連寄稿が多くて楽しめました。(S30年卒/高橋廣)

●なんとか卓球と囲碁を楽しんで、家庭菜園をして過(こ)してあります。(S30年卒/横山武)

●シヨンに86歳で、引越しました。開港の頃の日本の近現代、歴史を生で見られる所を毎日のように散策して足を鍛えています。(S31年卒/阿部進(旧姓及川))

●蛍雪は同窓生にとって唯一の母校とのつながりを持つメディア、大切に続けてもらいたい。公演のゴスペルに「アメイジング・グレイス」をリクエストします。(S33年卒/大友正行)

●84才になり持病(糖尿病)もあることから当面外出を控えています。(S33年卒/大山隆志)

●電話が聞きにくい人のための公共インフラ「日本財団電話リレーサービス」の理事長を務めております。(S35年卒/大沼直紀)

●腰部脊柱管狭窄症のため今後出席はできませんので悪しからずご承知おきください。(S35年卒/今野正弘)

●12月19日腹部大動脈瘤の再手術、同月30日に退院、リハビリに努めています。(S35年卒/黒岩弘一)

●なんとか透析しながら元気で過ごしております。当日土曜日は透析日ですので残念ですが出席できません。(S35年卒/我妻一美)

●同窓会も活気づいている感じでしょうか思っております。元気でやっております。これからも宜しくお願いします。(S36年卒/鹿野軍勝)

●傘寿になりました。70年余に渡り野球をこよなく愛し続けて来ましたが川崎野球連合会の会長職を今期で辞任、良き野球人生を送ることが出来ました。(S37年卒/六戸照男)

●上野正司) 会報を読んで是非出席しなければ。行政の仕事と運動(チャリントン・かけっこ)を続けて体調はまずまず。皆さんとの会合を楽しみにしております。感謝、感謝！(S39年卒/笹原誠一)

●週2回のバドミントンと湯船に浸かりながらの唄と晩酌を毎日楽しんでいきます。(S41年卒/高橋秀之)

●昨年、社会保険が終了し後期高齢者になりましたが、未だ現役で遣っております。(S42年卒/木村智則)

●沖繩伝、剛柔流空手道「森谷塾」は37年を迎えます。「蛍雪」に感謝。(S42年卒/森谷里美)

●70才迄仕事をしていました。現在はテニス、ゴルフをやり健康維持に努めております。(S43年卒/遠藤卓三)

●久しぶりにお会いしたいところで、当日は他の用事があり欠席とさせていただきます。次回は参加したいと思っております。(S44年卒/相澤次男)

●来年は、6度目の辰年となるため、心機一転、頑張っています。宜しく申し上げます。(S46年卒/速藤孝)

●いつも「蛍雪」を送ってください。有難うございます。久しぶりに因南歌の一節にふれて応援団の練習(怖かった!)を思い出しました。(S46年卒/佐々木明)

●もうしばらく東海大学総合農学研究所長として、熊本で働きます。(S46年卒/今川和彦)

●古希を迎えましたが、まだフルタイムで仕事をしています。(S47年卒/松本秀一)

●(S48年卒/加藤敏朗) 幹事の皆様、お世話になり感謝です。今回、初めての参加になりました。楽しんでます。宜しくお願いします。(S48年卒/安海一良)

●さいたま市市民課窓口になります。古高28回卒でまた集まりました。よう。(S51年卒/菅原博之)

●青木麻菜美さんのエッセーに感動しました。(S53年卒/浅野勝弘)

●新しく幹事を仰せつかりました。微力ながら諸活動に参加して参ります。宜しくお願いします。(S53年卒/鹿野太一)

●現在はフリーランスで鉄筋会社の経理事務とロータリークラブの事務作業を行って生計を立てています。本年から年金を受け取る手続きをしました。(S53年卒/浅野正則)

●今年夏より入会で高校時代の青春真っ只中の思い出が蘇ります。有難うございます。(S53年卒/佐々木裕次郎)

●現役は続くよ、どこまでも。ストレスを抱えるサラリーマン生活続けています。「スーパーエイジャー」を目指します。(S55年卒/亀井明)

●気が付けば還暦を過ぎてしまいましたが若手に負けじと現役で頑張っております。(S57年卒/赤間英一)

●毎年11月、ロンドン在住の友人が一時帰国します。その機会に5、6人集まり新宿の三陸料理の店で鯨の刺身を食しながら一献傾けるのが恒例となっています。(S59年卒/高橋克嘉)

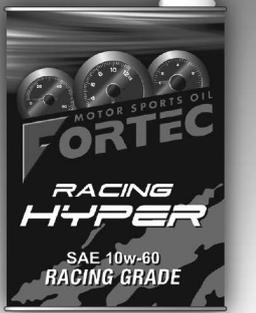
●今回は、古高時代の懐かしの先生方に寄稿いただきました。実際に薫陶を受けた会員諸氏も多いかと思えます。鹿野さんのラグビー部時代の写真

編集後記

は、まさに「青春の1ページ」を切り取ったもので、心に響くものがありました。自由投稿の女子1期生は、私、亀井の姪にあたります。文章が思ったよりマトモだったので、胸を撫でおろしています。今後も女子卒業生を積極的に取り上げていく予定です。(亀井)

前事務局長 急逝

体調不良で事務局長を退任された阿部 眞(昭和52年卒) 前事務局長が2024年3月30日急逝されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

FORTEC MOTOR SPORTS OIL
 エコオイルからレーシングオイル開発に携わり、国内、海外展開をしている。
 FORTEC モータースポーツオイル発売元
 耐久レース、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ等のサポートドライバーが大活躍しております。

代表取締役 渋谷 誠一(昭和42年卒)
フォルテック株式会社
 〒270-1108 千葉県我孫子市布佐平和台 4-5-23
 TEL 04-7189-4117 FAX 04-7189-2687
<http://www.fortec-oil.com/>